



Global COE Program

お茶の水女子大学 グローバルCOEプログラム 格差センシティブな人間発達科学の創成 ニュースレター 第3号

2面 第2回国際シンポジウム「東アジアにおける学力格差の現状と政策課題」

3面 国際セミナー/国際研修セミナー

4面 研究報告会/外部評価/2009年度開催予定

養育環境格差領域リーダー挨拶

養育環境格差領域では、子どもの養育過程における家庭や保育・教育施設の中での環境と個人との時系列的な相互作用に着目し、人間の発達に沿ったケア・クオリティやQOL(クオリティオブライフ)に現れる格差について、主に心理学的視点からその解明をめざしています。研究プロジェクトとして、メディア環境の格差、ハイリスク児の養育環境格差、家庭および施設での子どもの発達における格差に関する研究があり、いずれも縦断的な研究デザインによっ

て複雑な因果のプロセスの解明に挑戦しています。本グローバルCOEプログラムの研究活動の目的である「人間発達の時間軸を貫く格差の再生産構造の解明と構造転換への道筋の探究」を達成すべく、メンバー一同、精力的に活動してきており、研究の成果について積極的に発信していく予定です。

養育環境格差領域リーダー 菅原ますみ



基礎問題プロジェクト

お茶の水女子大学グローバルCOEでは、「国際的格差」「教育・社会的格差」「養育環境格差」の3つの研究領域間の相互理解と連携を深めるため、「基礎問題プロジェクト」を立ち上げ、各領域における中心的テーマに関する研究会を定期的に実施していくことになりました。今年度は、国際的格差領域および教育・社会的格差領域が主催する研究会が行われました。

第1回目

「国際教育開発の動向と課題」

日時：2008年11月14日(金) 17:00～19:00

国際的格差領域は、発展途上国の教育分野における格差をテーマとして取り上げました。多くの国で、未就学児童や成人識字率の問題、ジェンダー間の教育機会の不平等など、さまざまな課題が山積しています。研究会ではまず、国際協力開発の世界的潮流と国際教育協力の課題が示され、次に、個別の事例としてラオスにおける現状と課題が説明された後、タンザニアでの調査事例と比較国際教育学の立場からのコメントを軸に議論が行われました。



第2回目

「社会的排除／包摂をめぐる —格差是正をめざす理論と政策—」

日時：2008年12月21日(日) 13:30～17:00

共催：お茶の水女子大学教育研究プロジェクト「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」(CSDプログラム)

社会的排除と社会的包摂をめぐる問題については、欧州・EU諸国を中心に政策的対応がなされてきたが、わが国でも重要な政策課題となりつつあります。教育・社会的格差領域では、社会的排除と社会的包摂をテーマに、社会的排除／包摂論の理論的展開、EUにおける政策レベルの問題、大阪におけるホームレス支援の実態について、第一人者の先生方をお招きして公開セミナーを行いました。



第2回国際シンポジウム「東アジアにおける学力格差の現状と政策課題」

日中韓ではほぼ同時期に起こった全国レベルの学力調査の実施や復活の背景にはどのような状況があるのでしょうか。学力調査に関心を向けるのは学力水準であると同時に、学力格差の状況でもあります。本シンポジウムは、学力格差を中心に日中韓の社会の相互比較をととして、その共通性と異質性を明らかにし、各国がかかえる問題の本質とそれに対処する政策課題を浮かび上がらせることをねらいとして企画されたものです。

学力格差問題は国によって異なる事情を抱えています。中国では教育機会における大きな地域間格差が、韓国と日本では新自由主義的政策の優勢にともなう社会経済文化的な階層間学力格差が、それぞれ社会問題化していることが報告されました。このような学力格差について、各国政府はどう認識し、どう対応しようとしているのでしょうか。多くの学内外の大学院生や研究者の参加を得て、外は小雨の降る肌寒い天候だったにも関わらず、会場内では熱い議論が交わされました。

閉会後に催された懇親会でも、インフォーマルでありながら有意義なディスカッションと交流が行われました。

プログラムの詳細は以下のとおりです。

【日時】2008年12月14日(日) 13:00～17:00

【場所】お茶の水女子大学理学部3号館701

【講演】

北京師範大学教育管理学院教授 杜 育紅

「学力と学校資源の配置：中学校の調査結果から」

高麗大学教育学部教授 金 呉根

「中等教育における学力格差：韓国の事例」

お茶の水女子大学人間発達教育研究センター特任助教

垂見 裕子

「日本における学力格差—PISA データを中心に」

【コメンテータ】

神戸大学准教授 山内 乾史

お茶の水女子大学教授 耳塚 寛明

(シンポジウムコーディネータ)

【司会】

お茶の水女子大学准教授 浜野 隆

なお、本シンポジウムの配布資料は、グローバルCOEプログラム刊行物『PROCEEDINGS 06 SEMINARS & SYMPOSIA』(2009年3月)に掲載されています。

お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム
「格差センシティブな人間発達科学の創成」
Ochanomizu University Global COE Program
"Science of Human Development for Restructuring 'Gap-Widening Society'"

国際シンポジウム 2008
International Symposium 2008

「東アジアにおける
学力格差の現状と政策課題」
Educational Achievement Gaps in East Asian Countries:
Current Status and Policy Issues

日時 (Date) 2008年12月14日(日) 1:00pm～
December 14, 2008 (Sun) 1:00 pm～

場所 (Venue) お茶の水女子大学理学部3号館701室
Ochanomizu University Science Building #3, classroom 701

講演者 (Speakers)

- 北京師範大学教育管理学院 杜育紅 (教授)
DU, Yuhong (Professor, College of Education Administration, Beijing Normal University)
「学力と学校資源の配分：中国中学校の調査結果から」
Student Academic Performance and the Allocation of School Resources:
Results from a Survey of Junior Secondary Schools in China
- 高麗大学教育学部 金呉根 (教授)
KIM, Kyung-Keun (Professor, Department of Education, Korea University)
「中等教育における学力格差：韓国の事例」
Achievement Gaps in Secondary Education:
The Korean Case
- お茶の水女子大学人間発達教育研究センター 垂見 裕子 (特任助教)
TARUMI, Yuko (Assistant Professor, Ochanomizu University Global COE Program)
「日本における学力格差—PISAデータを中心に」
Findings from PISA Data

コメンテーター (Commentators)

- 神戸大学准教授 山内 乾史
YAMANOUCHI, Kenshi
- お茶の水女子大学教授 (グローバルCOE 開設リーダー) 耳塚 寛明
MIMIZUKA, Hiroaki

司会者 (Chairperson) 浜野 隆
HAMANO, Takashi

使用言語 (Language) 日本語・英語 (日英同時通訳)
English/Japanese Translation

入場 (Admission) 無料
Free

申込み (Registration) お茶の水女子大学グローバルCOEプログラムホームページからお申し込みください。
On-line registration is available at: <http://ocha-gaps-gcoe.com/>

お茶の水女子大学 Ochanomizu University

問合せ先 (Contact) お茶の水女子大学 グローバルCOE事務局
112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 TEL/FAX: 03-5978-5247
E-mail: jmu-gcoe@cc.ocha.ac.jp <http://ocha-gaps-gcoe.com/>



参加者のコメント

- 各国の現状と課題を聞くことができてよかった。今後の研究に活かしていきたい。
- 「家庭環境」＝母親の役割の重要性を感じた。政策だけではどうしてもない部分が多々あるのだね。
- 中国と韓国、日本のそれぞれの研究者から直接研究調査についてのお話をうかがうことができて、貴重な経験をすることができ、嬉しく思います。日・中・韓の比較や、日本の学力格差の現状を知ることができ、とても面白かったです。
- 日中韓の学力格差の現状について、相違点など、興味深く聞かせていただきました。学部では個々の国や社会について考えることが多いので「東アジア」という視点を新鮮に感じました。
- 発表はこんなふうに行われているのだと、会場の雰囲気を感じることができただけでも満足です。内容に関しては、特にデータの読み取り方が私にとっては難しかったのですが、全体的な内容は理解できたところもあり、非常に有意義でした。



国際セミナー/国際研修セミナー

国際セミナー：中西部アフリカにおける幼児教育の現状と課題

2008年9月30日(火)～10月1日(水)、中西部アフリカのカメルーン、セネガル、ニジェール、マリ、ブルキナファソ5カ国(フランス語圏)の教育行政官(中央および地方)、視学官、教員養成校の教員9名を招き、中西部アフリカにおける幼児教育に関する国際セミナーを開催しました。9名それぞれから、各国における幼児教育の制度、自身の役割と職場で直面する問題点、幼児教育の現状、教育の普及をめぐる格差などが報告されました。この国際セミナーを通じて、日本側も普段余りなじみのない中西部アフリカにおける格差の現状を理解することができました。大学教員、大学院生、学部学生、援助関係者が多数参加し、活発な意見交換がなされました。



国際セミナー：中西部アフリカ幼児教育アクションプラン

2008年10月14日(火)、中西部アフリカのカメルーン、セネガル、ニジェール、マリ、ブルキナファソ5カ国(フランス語圏)の教育行政官、視学官、教員養成校の教員9名から、各国の幼児教育の将来に向けた行動計画が報告されました。これらの行動計画は日本での3週間の研修(視察や講義)の成果に基づいて作成されたものであり、今後の各国の幼児教育の拡充と格差緩和に向けた諸計画が盛り込まれたものとなっています。日本の幼児教育から何を学んだか、それをいかに自国の幼児教育に活かすか、子ども中心主義の保育はアフリカで展開可能か、といった点を中心に報告されました。日本側は大学教員、国際援助専門家、大学院生が参加し活発な議論が交わされました。



国際セミナー：モンゴルにおける保育改革と子ども発達支援

2008年11月28日(金)、お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム国際的格差領域は、モンゴルにおける保育改革と子ども発達支援に関する国際セミナーを開催しました。まず、モンゴル国立教育大学幼児教育学部長のJamsrandorj Batdelger先生から「モンゴルにおける就学前教育改革」の報告がありました。次に、ユニセフ・モンゴル事務所ECD(Early Childhood Development)オフィサーのTsendsuren Tumeeさんが「モンゴルにおける幼児発達のオルタナティブな形態」について説明し、最後に、一橋大学大学院博士課程に在籍中のAriuntuya Myagmarさんが「遊牧民家庭の子どもへのゲル幼稚園」について現地での調査報告を行いました。参加者からは、日本とモンゴルの幼小連携教育や、モンゴルにおける保育改革と乳幼児の発達支援、格差問題などに関する質問が出され、活発な議論が行われました。



国際セミナー：一般的攻撃モデルと、拡大する暴力の連鎖

国際攻撃研究学会の次期会長であり、攻撃研究の世界的第一人者であるクレイグ・A・アンダーソン博士(アイオワ州立大学Distinguished Professor)をお招きし、2つの講演会を行いました。1つ目は、11月15日(土)に、お茶の水女子大学で行われた日本パーソナリティ心理学会第17回大会の企画として行われました。同学会が主催し、本GCOEはその共催者となりました。タイトルは、「メディア暴力と攻撃的パーソナリティの発達」でした。講演会は一般公開されました。2つ目は、11月18日(火)に、これもまたお茶の水女子大学で行われました。GCOEが主催し、タイトルは、「一般攻撃モデルと、拡大する暴力の連鎖」でした。湯川進太郎准教授(筑波大学)が指定討論を行いました。2つの講演会とも、渋谷明子氏(慶應義塾大学)が通訳を行い、本GCOEメンバーの坂元章教授が司会を務めました。



国際研修セミナー：日韓幼児教育研修セミナー

お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム国際的格差領域は、幼児教育学界の権威である梨花女子大学の李基淑教授と18名の学生を迎え、2008年12月15日(月)～22日(月)に日韓幼児教育研修セミナーを開催しました。本国際研修セミナーは、日本語・韓国語通訳つきで8日間の間で、自然の中での人格形成を大切にする和光保育園、男性保育士が中心である東京大学附属たんぽぽ保育園、今日まで132年間、日本の幼児教育を主導し、様々な実践と提言を行ってきた本大学の附属幼稚園など計6箇所の保育園・幼稚園の見学、そして白梅学園大学無藤隆教授、お茶の水女子大学副学長内田伸子教授、同大学大戸美也子教授をはじめ、幼児教育研究の第一線で活躍する計10名以上の講師陣による講義を行いました。また、保育カンファレンスを2回行い、日本の学生と韓国の研修生が両国の幼児教育について保育実践のあり方から理論まで幅広く議論しました。期間中、延べ参加者人数は228名であり、研修テキストは100冊以上配布しました。韓国梨花女子大学とお茶の水女子大学の幼児教育における学術交流の歴史の第一歩を刻むととても有意義かつ充実した日韓幼児教育セミナーでした。



研究報告会

教育・社会学的格差領域セミナー

(1) JELS 報告セミナー

「青少年期の移行の危機と家庭生活—JELS 2006・2003のデータから—」

2008年10月16日(木)

「青年期への社会学的接近—移行・文化・階層—」2009年1月19日(月)

教育・社会的格差領域では、青少年期から成人期への移行についての追跡的調査JELS (Japan Education Longitudinal Study) を進めております。関東と東北の小・中・高校生および保護者の方を対象に実施したJELS2003、JELS2006の調査データを元にセミナーを開催しました。

(2) 特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」共催セミナー

「学校教育を通じた若者のキャリア形成支援」
2009年1月26日(月)

近年、学校から職業生活への移行が危機に瀕しています。このとき学校教育は若者のキャリア形成に対してどのような支援が可能でしょうか。本セミナーではこのような問題関心のもと、若者のキャリア形成に対する学校教育の効果に焦点をあてて、発表を行いました。



英語によるプレゼンテーションセミナー

2009年2月2日(月)、9日(月)の2日間にわたり、グローバルCOE国際委員会主催の「英語によるプレゼンテーションセミナー」を開催しました。前半は、海外の学会で発表する意義、そのための準備、効果的なプレゼンテーションのための技術(発表スライドの概要・構成など)について解説。後半は、参加者の書いた英文要旨と参加者による英語のプレゼンテーションを題材とした実習を行いました。本学博士後期課程大学院生を中心とする参加者から、具体的な質問が多く出されました。



RA 研究報告会

2008年度のRA(リサーチアシスタント)のうち公募研究を実施している者を除く29名による研究報告の機会をもちました(公募研究実施者は来年度の初めに別途研究報告の機会をもつ予定)。1回目(9月16日)はD2以上に、2回目(2月24日)はD1に、それぞれ報告してもらいました。各報告にはコメントを設定しました。1回目はD1が、2回目はD2以上がコメントしました。本研究拠点は心理学・社会学・教育学という3つの学問領域で構成されています。これらの学問領域の若手研究者が相互理解を深めるとともに、自分の学問領域の独自性を認識できるように、すべ

ての報告について、報告者と別の学問領域の者がコメントを担当するように組み合わせました。初歩的ではあっても研究の本質を鋭く突くような質疑も出され、有意義な研究交流でした。



第2回発達追跡研究のための多変量解析セミナー

2009年1月19日(月)、21日(水)、23日(金)の3日間にわたり、研究プログラム委員会主催の発達追跡研究のための多変量解析セミナー「縦断データの解析：潜在成長曲線分析」を開催しました。昨年6月に開催した第1回セミナーに続き、第2回となる本セミナーでは、現在世界中で行われている大規模な縦断研究を紹介すると共に、そこにおいてデータ解析の中心となる技法として用いられている潜在成長曲線分析を理解するために必要となる、基本的な知識についての解説を行いました。



お茶の水女子大学 グローバルCOEプロジェクトの外部評価について

本グローバルCOEプロジェクトは、まもなく2年目を終わろうとしていますが、その教育研究プロジェクトの方向性に対して、1年目の2007年度に行った外部評価委員会による外部評価が大きな影響を与えていることを忘れてはなりません。本プロジェクトは、学術的、社会的意義について客観性を保ち、自らの活動を律する観点から、内外の研究者から常に厳しい目でもって評価を受けながら、活動することを志しています。国内からは潮木守一先生(桜美林大学大学院国際学研究所特任教授)、柏木恵子先生(文京学院大学大学院人間学研究所教授)、市古

夏生先生(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科長)をお招きし、海外からはPhillip Brown先生(Professor, School of Social Sciences, Cardiff University)、Anne Fernald先生(Josephine Knotts, Knowles Professor of Human Biology, Stanford University)をお迎えし、外部評価を受けました。外部評価委員の先生方から、教育、研究活動の方向性に対する示唆を頂き、改善点も御提案いただき、本プロジェクトでは早速2年目の2008年度から外部評価の結果を生かした活動を行っています。詳しくは、公開中の「外部評価書」を参照されたいです。

2009年度開催予定の情報

第6回子ども学会議のお知らせ

2009年9月12(土)、13日(日)の両日、日本子ども学会と共催で、第6回日本子ども学会議が、お茶の水女子大学(主会場：微音堂)で開催されます。メインテーマは「こども・環境・脳科学」で、子どもを取り巻く環境が、子どもの発達に与える影響についてさまざまな講演とシンポジウムが計画されています。

■ 編集後記

お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」は社会的公正に敏感な女性研究者を育成し、国際的にも通用する教育研究拠点を構築するために、さまざまな教育プログラムや研究プロジェクトを精力的に遂行しております。今回のニュースレター3号では、各領域の研究活動の報告会、研究会のほか、国際社会における格差問題を取り上げた数多くの国際シンポジウム、国際セミナーの紹介を中心に掲載しました。研究と実践が遊離せず、社会的課題意識に正面から取り組む研究活動を地道な努力によって実現していきます。また、海外の研究者とのネットワークの構築や学術的な交流によって、より一層良い成果が得られると思います。最後に編集に協力してくださった方々に感謝の意を表します。

編集者 広報委員会委員 李 美静

発行

お茶の水女子大学 グローバルCOE プログラム
「格差センシティブな人間発達科学の創成」
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
グローバルCOE事務局
Tel/Fax: 03-5978-5247
E-mail: jimug-coe@cc.ocha.ac.jp
URL: <http://ocha-gaps-gcoe.com/>